

- 国語科の授業のアイデアを広げたい!
- 具体的な実践事例を知りたい!
- 授業の導入に使える小話はないだろうか?

そんな先生方のために、秀学社国語科通信シリーズをスタートします。

## 「1」から始める 1人1台端末の活用

北海道教育大学附属札幌中学校

新井 拓

「やってみる」から始めよう

私が教員になった四半世紀前、PCを使う場面は、テストや成績の処理など限られていました。PCについての知識やスキルも個人差が大きく、自分も苦勞しながら使い始めたことを覚えています。この状況は、一人一台端末が導入された現在ととてもよく似ています。ただし、大きく異なるのが変化の速度です。コロナ禍の影響もあり、一人一台端末の整備が前倒しされ、すでに様々なコンテンツの提供が始まっています。出版される書籍を見てもICTの文字が必ずと言っていいほど目に入ります。そんな加速度的に変化する現状で、使い方をしっかりと学んでから授業に臨もうとしては、次から次に押し寄せる情報に飲み込まれて、ますますハードルが高くなってしまいます。今、必要なのは「まずはやってみること」です。そして使いながら学んでいくことで、一人一台端末活用の可能性を感じるができるのではないのでしょうか。

以下、私自身が今年度に「まずはやってみる」実践を紹介させていただきます。

1

休校中の課題  
『青空文庫』で語ろう

コロナ禍による休校中に「青空文庫」の作品を読み、感想を書くことを自由課題として出しました。生徒が書いた感想はGoogleフォームを使って集約し、全体にフィードバックをしました。これまでも生徒が書いた作文を全体に紹介することはありましたが、Googleフォームを使うことでその手間が大幅に軽減されました。



### 青空文庫で語ろう

青空文庫から好きな作品を読み感想を書こう。送ってくれた感想は、学級にも紹介するよ。

(例)

題名: 「よだかの星」

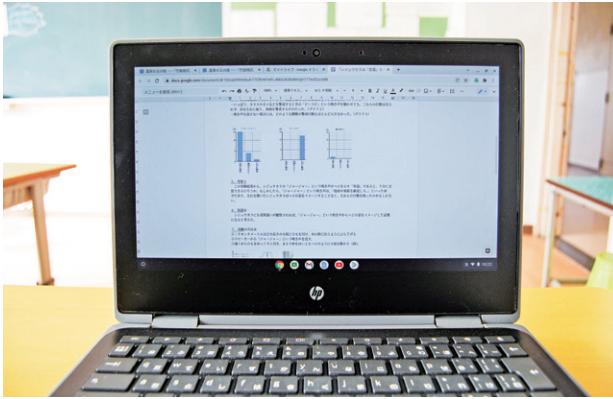
作者: 宮沢 賢治

感想: 子どものころに絵本で読み聞かせしてもらったのを思い出しながら読みました。涙がでるくらい切ない作品という印象は昔も今も変わりませんが、大人になった今だから感じることもたくさんありました。これまでに読んだことのある人にも、改めて読み直してほしい作品です。もちろん、まだ読んだことのない人は、一度は必ず読んでみてください。

## 2 説明的な文章をレポート形式にリライトする

『言葉』をもつ鳥、シジユウカラ（光村図書一年）という説明的な文章は、小見出しこそついていないものの、「課題・仮説・実験の方法・実験の結果・考察」という構成が明確です。また、文章を補足する図表との関係にも気付かせたい教材です。こうした教材の特徴を踏まえ、文章の構成を捉えることをねらいとして、Googleドキュメントを用いてレポート形式にまとめ直すという言語活動を設定しました。その際、教材本文のテキストデータと図表についても配付し、文章や図表をコピー＆ペーストして使用できるようにしました。

これまでも教材文を別の形式（文図など）でまとめ直して内容理解を図る取組は実践してきましたが、Googleドキュメントを用いることで、生徒の作業の手間を大幅に軽減することができました。



## 3 資料を引用してレポートを書く

これまでも授業でレポートを書かせることはありましたが、PCの使用を全ての生徒に保障することが難しく、多くの場合、手書きをさせていました。一人一台端末が整備されたことで、こうした問題は解決されました。今回は、Googleドキュメントを用いて、中学生の実態についてのレポートを作成するという言語活動を行いました。一人一台端末を用いることのメリットを以下に示します。

- ・ インターネットの常時利用
- ・ 図表の引用（スクリーンショットの活用）
- ・ 内容や構成の修正
- ・ Googleフォームの活用によるアンケート調査の実施と集計
- ・ 「共有」機能による生徒同士の交流
- ・ 一人一人の進捗状況の見取りと助言

ここで紹介した実践は全て以前から実践してきた取組の延長線上にあります。しかし、一人一台端末を使って「やってみた」ことで私自身その可能性を感じることができました。先生方も、是非「まずはやってみる」に挑戦してください。

### 【編集部】のつぎやき）今も色褪せない珠玉のエッセイ

没後40年。作家・向田邦子さんは、最初から文章が上手かった。映画雑誌の編集員に応募した彼女の文章を見た採用担当者が、その完成度の高さに舌を巻いたという。やがてホームドラマの脚本家として売れっ子になるのだが、私は『阿修羅のごとく』などの脚本や小説よりも、彼女のエッセイが好きだ。素直な目と心で家族のことや少女時代を回想し、仕事仲間や食べ物や猫のことなど日常を見つめ、端正な文体でさらりと鋭く、こまやかにつづった。一つ一つの作品に、私は、柔軟かつ繊細な感性とさっぱりした人柄、人生を楽しもうというユーモアの心を感じるのである。（編集部：丸山）

### 秀学社 国語科 LINE公式アカウント コクカフェ

▼役立つ情報を配信します。  
ぜひご登録ください。

